

ビンナガ 北大西洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近の動き

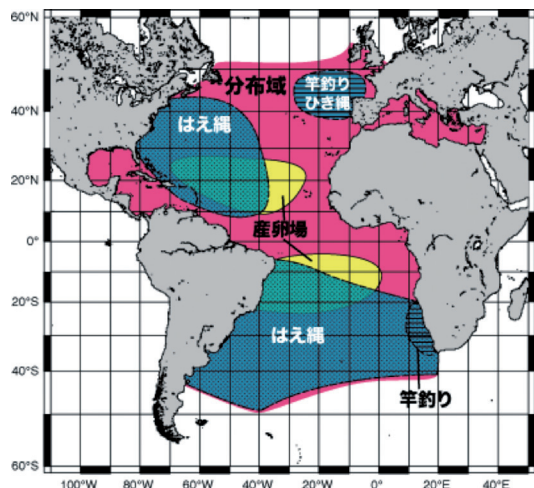
2016 年に資源評価のアップデートが行われ、10 月の ICCAT の科学委員会 (SCRS) で報告された。

生物学的特性

- 体長・体重：130 cm、40 kg
- 寿命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：5 歳頃
- 産卵場：西部では北緯 25 ～ 30 度で、中部から東部では北緯 10 ～ 20 度
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料



大西洋におけるビンナガの分布と主な漁場

漁業の特徴

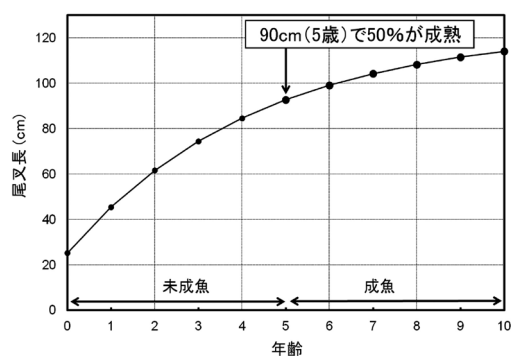
ビスケー湾でスペインのひき縄及び竿釣り、またアゾレス海域でスペイン及びポルトガルの竿釣り、1950 年代以前の古くから漁獲されてきた。1980 年代後半から、新しい表層漁業である流し網や中層トロールによっても漁獲されるようになった。はえ縄による漁獲は多くを台湾が占め、1960 ～ 1980 年代に多かったがその後減少し、表層漁業による漁獲よりも小さくなっている。日本のはえ縄の混獲として漁獲している。

漁獲の動向

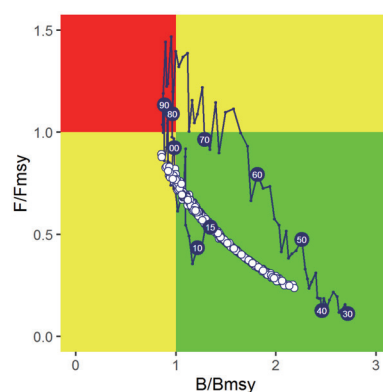
本資源の年間総漁獲量は 1960 年代中頃（約 6 万トン）をピークに、徐々に減少している。その原因は主としてひき縄、竿釣り及びはえ縄などの伝統的な漁法の努力量の減少による。近年では 1999 年の 3.5 万トンから 2002 年の 2.3 万トンまで減少した。その後、表層漁業による漁獲量が増加して、2006 年に 3.7 万トンにまで回復した。しかし、2007 年から表層漁業及びはえ縄の両方の漁獲量が大きく減少し、2009 年には 1.5 万トンとなった。これは 1950 年以降で最低であった。2010 年以降、増加傾向に転じ、2014 年は過去 5 年で最も多い 2.7 万トンを記録した。2015 年はやや減少し、2.5 万トンであり、国別では、スペインが最も多く 1.4 万トン、日本は 283 トンであった。日本・アイルランドは過去 5 年平均と同様、スペイン・台湾は増加、フランスは減少した。

資源状態

2016 年の資源評価では新たに親魚資源量動態モデル (Biodyn) を用いられた。資源評価には 1930 ～ 2014 年のデータを用い、前回の資源評価では CPUE の漁業間での不整合が問題となっていたため、今回の資源評価では、漁業のデータの良質さ（カバーする海域・期間の多さや精度）を考慮し、かつ CPUE トレンドの相関から歴史的に類似の CPUE トレンドを示す 5 種類の漁業（台湾のはえ縄、日本のはえ縄（1988 ～ 2012 年）、スペインの竿釣り、ベネズエラのはえ縄、米国のはえ縄）を抽出して用いた。Biodyn の結果では、1930 年代から 1990 年代にかけて資源量は減少し、1980 ～ 1990 年代に MSY レベルを下回ったが、その後回復傾向が続き、現在は MSY を上回っている。漁獲圧も 1990 年代初頭に 1.4 と、MSY レベルを上回っていたが、1990 年代後半以降は MSY を下回ったとされた。ベースケースモデルより推定された MSY の中央値は 37,082 トン、 B_{2014}/B_{MSY} の中央値は 1.36、 F_{2014}/F_{MSY} の中央値は 0.54 であった。過剰漁獲でありかつ乱獲状態である確率は 0%、過剰漁獲ではないが、乱獲状態である確率は 3.2%、過剰漁獲・乱獲状態にない確率は 96.8% と推定された。将来予測の結果より、将来の漁獲量が最近 5 年平均（2.4 万トン）または TAC（2.8 万トン）であった場合、資源量は 2014 年レベルより増加すると予測された。



北大西洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係



管理方策

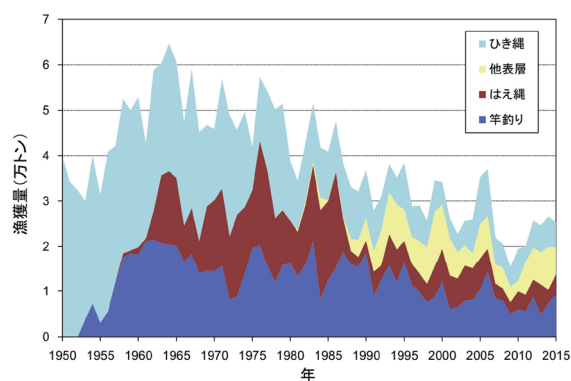
ICCAT により、1999 年から、漁獲能力を抑えるために入漁隻数が 1993～1995 年の平均隻数に制限され、TAC も設定されている。2017～2018 年の TAC は 2.8 万トンであるが、2019～2020 年の TAC は 2018 年の年次会合で検討する。また日本については、北大西洋ビンナガを目的とした操業を行っていないので「漁獲量が大西洋全体におけるはえ縄によるメバチの漁獲量の 4% 以下になるよう努力する」という規制が課せられている。

資源状態のまとめ

- 2016 年に資源評価を実施 (Biodyn モデルを採用)。
- MSY の中央値は 37,082 トン、 B_{2015} の中央値は 55.4 万トン。
- F_{2014}/F_{MSY} の中央値は 0.54、 B_{2015}/B_{MSY} の中央値は 1.36 であり、過剰漁獲・乱獲状態にない確率 ($F/F_{MSY} < 1$ 、 $B/B_{MSY} > 1$) は 96.8%。
- 将来の漁獲量が最近 5 か年 (2.4 万トン) 以上または TAC (2.8 万トン) であった場合、資源量は 2014 年レベルより増加すると予測。

管理方策のまとめ

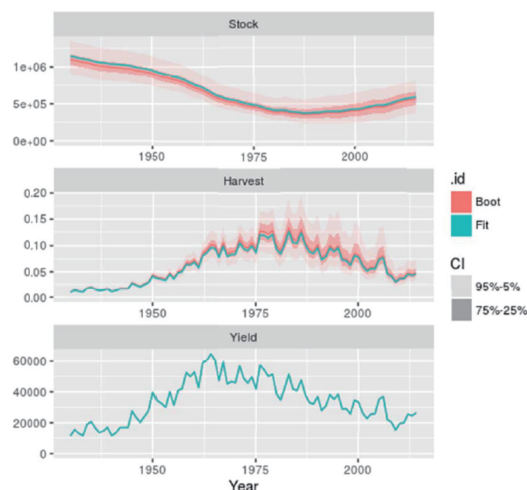
- 2017～2018 年の TAC は 2.8 万トン。
- 日本は、漁獲量が大西洋全体のはえ縄によるメバチの漁獲量の 4% 以下になるよう努力。



北大西洋におけるビンナガの漁法別漁獲量

北大西洋ビンナガの資源における相対資源量 (B/B_{MSY}) 及び相対漁獲係数 (F/F_{MSY}) の 1930～2015 年における推移

黒線：資源状態の軌跡、黒点；年別の資源状態 (数字は西暦下 2 桁を示す)、白点；2015 年の資源状態の不確実性を示す。



Biodyn ベースケースモデルから得られた北大西洋ビンナガの 1930～2014 年の資源量 (上) 及び漁獲圧 (中) 漁獲量 (下) の推移

ビンナガ(北大西洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	低 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	20,039～26,651 トン 最近 (2015) 年：25,450 トン 平均：24,490 トン (2011～2015 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	267～1,745 トン 最近 (2015) 年：283 トン 平均：606 トン (2011～2015 年)
最新の資源評価年	2016 年
次回の資源評価年	2019 年